

6-5		主題 事故を無くすために取り組んだ 新しいカンファレンスの形と効果について	
リスクマネジメント 事故防止対策		副題 「気付きの強化」転倒事故85%減の軌跡！	
研究期間	4ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム三ノ輪
発表者：勝又 理絵子（かつまた りえこ）		アドバイザー：本間 丈晴（ほんま たけはる）	
共同研究者： 佐藤親資 壁岸麻依美 根本幹夫			
電 話	03-5603-2231	メール	t-mino@bz03.plala.or.jp
FAX	03-5603-2232	URL	minowa-welfare.web.infoseek.co.jp

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	台東区社会福祉事業団が母体である特別養護老人ホーム三ノ輪では、「入居者・利用者の満足の追求」「施設の発展性と安定性の追求」「職員がやりがいある職場環境の追求」の3つを経営理念の根幹として、サービスの向上に努めている施設です。事故防止を目的とし、リスクカンファレンスを昨年度末より実施しております。今回はその成果をまとめました。
------------------------------	---

《研究前の状況と課題》 以前より介護事故防止の取り組みとして、事例からの検証を行っていた。事故発生直後に開催する事故検討会や、四週間に一度開催している多職種合同でのリスクマネジメント会議、フロア会議で行われる独自の事故検討など。 しかし全ての会議は事故が発生してから開催されているため、迅速な対応が行えていない状況にあり事業所としての課題であった。 今年の三月に開催されたリスクマネジメント会議にて、繰り返し起こる方の事故事例について話し合いが持たれた。そこで“事故を起こさない”ではなく“事故が起きない”の視点に注目し、事故が起きる前にカンファレンスを開催し、その効果を検証したいと考えた。	《研究の目標と期待する成果》 ○研究の目的 事故対策への意識と理解を深め、事故が起きない環境を作り上げる。 職員の意識改革を目標とし専門性を高める。 ○期待する成果 ①繰り返し起きる事故を未然に防ぐ ②安全で安心できる環境整備の実現 ③多職種間での意見交換の活発化 ④情報伝達・情報共有の新たな形の構築 ⑤介護力を向上させ、統一した支援を提供する 上記の成果を期待し、リスクカンファレンスの取り組みを開始した。
--	---

《具体的な取り組みの内容》

リスクカンファレンスでは、繰り返し起こる方の事故事例に着目し会議が進められた。会議参加者は介護士、看護師、相談員と、必要に応じて介護支援専門員、栄養士も参加した。

カンファレンスは1ケース10分、1日2件から4件のケースについて検討を重ねた。今まで行っていた会議（カンファレンス）と大きく違うところは、状態が安定していても毎週会議を開催する点にあった。

多職種と問題を共有できる環境が週に一度あり、現在の援助を客観的に振り返るとともに、新たなプランの必要性を専門的視点で話し合うことが出来た。

また、リスクカンファレンスと並行して取り組んだ事は、職員の意識改革である。カンファレンスの理解度・周知度を確認するために定期的にアンケートを実施、職員の意識の違いを把握する中で統一した援助が出来るようになった。

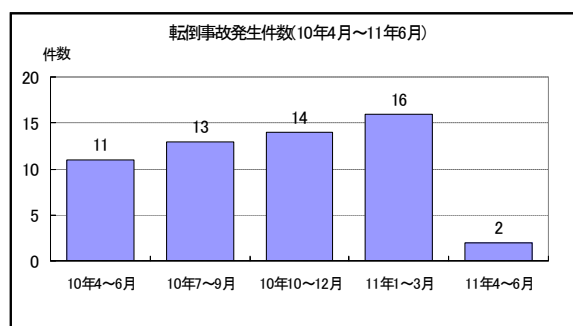
転倒事故が減少するにつれ、職員の意識が高まり気付きの強化へとつながっていった。

《取り組みの結果と評価》

リスクカンファレンスは繰り返し転倒事故を起こす方4名に焦点を絞った。

下記のグラフは平成22年4月から平成23年6月までの転倒事故集計である。

リスクカンファレンスを開始した、平成23年3月23日から急激に転倒事故が減っている事が示されている。



《まとめ》

事故件数が減少し、リスクカンファレンスの取り組みが必要であると証明された。

この取り組みが今後も継続出来るようにシステムの構築が必要であると考える。

個々の職員の介護技術を含めた、能力開発についても取り組みを行っていきたい。

《提案と発信》

週に一度の会議開催は、考えた以上に時間を費やすものであった。しかし、その時間は振り返りの時でもあり、新たな取り組みを行うには必要不可欠なものであった。

今後も多職種間での情報共有を重ね、新たな視点に気づきを持って取り組んで行きたい。

【メモ欄】